

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2019年1月29日

事業所名：ホザナ・ルーム

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|----------|---|--|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保 | 訓練室はフローリングとマットで子どものスペースなどあり、トイレも2か所ある。法令に遵守したスペースを確保している。 | 広さは充分あり、のびのび遊べてると思う | これからも引き続き、法令を遵守したスペースの確保に努める |
| | 2 職員の適切な配置 | 法令に遵守した配置数に加え、必要に応じて、指導員を増やし、調整している。 | 日々、何人の方が配置されているか分からない | 利用日ごとに、職員の配置を事業所が利用者さんに提示して安心して過ごしてもらえるようにする |
| | 3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備 | 室内のバリアフリーの徹底化。視覚支援としてマットを敷き、遊ぶ箇所と机による学習等、使い分けている。 | 危なくないようにして頂いている | 今後も引き続き、法令を遵守した設備整備に努める 職員の安全に対する意識の向上に努める |
| | 4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保 | 清掃マニュアルを作成、遵守している。毎日、掃除機による清掃だけでなくモップ掛けを行う。食器類は殺菌を行っている。 | 子どもはとても居心地が良さそうで安心しています | 引き続き、清掃マニュアル等を通じて、清潔で心地よい環境整備に努める |
| 業務改善 | 1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画 | 職員自らが能動的に子どもの支援を行うように働きかけている。必要に応じて、職員の会議を開いている。 | | これからも継続的に能動的に子どもの支援を行うように徹底する。 |
| | 2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施 | 子ども部会の参加による外部情報の取得により、業務改善を図る。また、当法人内での情報共有により、業務改善に努めている。 | | 障害者地域生活支援センターやその他第三者機関との連携を図る |
| | 3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保 | 外部の研修を受ける機会を設けている。研修を受けた後は、報告書などの作成により、全体への周知をしている。 | | 引き続き、外部の研修の参加する機会があれば、積極的に全員の職員が参加できるようにする |
| 適切な支援の提供 | 1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成 | 利用者のモニタリングや保護者様の要望や課題を適切に行うように取り組んでいる。計画期間ごとに個別の支援計画の作成、見直し等行っている。 | | モニタリングの強化を更に深め、利用者のニーズを更に掘り下げ、個別支援計画に反映する |
| | 2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成 | 子どもの発達段階に応じた作業や遊びなどを通じて、個別支援を行う。音楽やゲームを用いて、集団活動に参加している意識を持って頂くようにしている。 | 今後は課題に沿った設定を期待する設定保育的でなく、興味を持ったもので遊んでほしいと思う | 引き続き、継続して個別支援を行う。一方、集団活動においては、イベント等を企画して集団意識を高めるように努める |
| | 3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載 | それぞれの子どもの特性に応じた、支援内容を個別の支援計画に記載。そしてホワイトボードなどを用いて、子どもに分かりやすいように記載している。 | | これからも引き続き取り組む。さらに視覚支援を強化するように努める |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 | |
|-----------------|--------|--|--|--|--|
| 適切な支援の提供 t (続き) | 4 | 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施 | 保護者からのニーズに合わせて、子どもの支援の実施。また子ども自身の特性を更に伸ばすための支援を実施している。 | 嫌にならぬように工夫していただいています | 引き続き継続して取り組む。 |
| | 5 | チーム全体での活動プログラムの立案 | 指導員の特性を生かして、子どもの支援のプログラムの立案をしている。長期休暇中などの活動プログラムは特に手厚く行っている。 | | 指導員の資質の向上を更に深める。そして得た情報を共有して、職員全体がプログラムに拡散できるようにする。 |
| | 6 | 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援 | 保護者のニーズに合わせた臨機応変な送迎を行っている。また長期休暇の季節に応じた遊びや学習を通じて支援を行っている。 | 子どもが施設でケガをしてしまった時、すぐに電話で報告してくれた。その後も対応策を考えて文書にしてくれたので分かりやすかった。 | 引き続き、保護者のニーズに応じた細やかなサービスに努める。 |
| | 7 | 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施 | 子どもの発達段階や体調などに応じて、プログラムを弾力的に施行している。 | | 発達段階の変化に伴い、更にプログラムを弾力的に深めるように取り組む。 |
| | 8 | 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底 | 職員の出勤すると、責任者等が、一日の流れを全体で把握できるようにしている。 | | 支援前での利用者さんの支援内容を全員の職員が伝わるように、掲示板等を用いて、具体的にしめすようにする |
| | 9 | 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化 | 連絡帳の写し等を通じて、子どもの支援が適切であったかを再確認している。そして必要ならば、全体で話合う機会を持っている。 | | 支援が終わると、その日の子どもの様子を職員が能動的に他の職員に伝え業務連絡に盛り込み、全体で把握できるようにする |
| | 10 | 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施 | 連絡帳の写しを必ず一部ずつ事業所として保管している。業務日報を記し、支援内容が適切であるか検証している。 | | 業務日報を引き続き、丁寧に記録する。そして全職員に伝え、支援の検証を全職員で行う |
| | 11 | 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し | 半年に一度のモニタリングを確実にしている。その上で個別支援の計画を子どもの発達段階に沿って見直している。 | | 継続してモニタリングを行い、その都度、個別の支援計画の見直しを行う |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 | |
|----------|--------|--|--|--|--|
| 関係機関との連携 | 1 | 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画 | 障害者地域支援センター等との連携の基、ノーマライゼーションの考えに従い、子どもが地域で生活できるように参加している。 | | 障害者地域生活支援センターや医療機関、役所や学校との連携を図る |
| | 2 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施 | 子どもが利用している病院の理学療法士や作業療法士の見学、意見の聞き取りを通じ、連携を図っている。また当事業所の主治医の定期的な来診も行っている。 | | 継続して専門家の意見を聞き取り、実践するようにする |
| | 3 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備 | 緊急連絡先の確認や、服薬のある子どもについては、お薬手帳等で確認している。 | | 利用者の主治医と事業所の連携している医療機関との連携を深めるようにする |
| | 4 | 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有 | 子ども部会や地域のイベントを通じて、子ども同士が顔を知る事により、次の進学先との連絡を図っている。 | | 事業所で得られた情報等、保護者の了承の基に、学校や幼稚園・保育園にお伝えし、また聞き取ることを進める |
| | 5 | 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、 | 就労支援型の作業所の見学や、作業内容を知り、保護者へ提供している。 | | 事業所として、卒業後の進路先を見据えて、利用者さんの支援内容を計画、実践する |
| | 6 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進 | ケアマネージャーとの連携や、子ども家庭センターなどを通じて、専門機関との連携を図っている。そして研修案内があれば、参加している。 | | 継続的に連携を行う。また専門機関の研修を通じて、職員の資質向上に努める |
| | 7 | 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供 | 地域のイベントの参加や、幼稚園との交流会などを通じて、他の子どもと活動する機会を保つようにしている。 | 毎回行くことが楽しみでしかた無いようです。 | これからも地域のイベントがある毎に参加できるようにする |
| | 8 | 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営 | 地域のイベントの参加や、幼稚園との交流会などを通じて、他の子どもと活動する機会を保つようにしている。 | 気付いてないだけかも知れないが、概要や予定は知りたい。 利用している方は知りたいと思う | 地域の行事には参加できてる部分もあるが、住民の方の招待ができていないので、これからの課題である。利用者のプライバシーの観点からも気を付けて取り組みたい。 |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 | |
|---------------|--------|--|--|--|--|
| 保護者への説明責・連携支援 | 1 | 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明 | 事業所としての支援の方針や利用者の負担がある事を説明、理解してもらっている。 | 職員の皆さんが子どもに対してとても丁寧に接しているので非常に有難いです。 | 支援内容や負担については、これからも丁寧に、そして継続的に取り組みたい。 |
| | 2 | 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明 | 保護者に来所して頂き、面談等を通じて支援内容をしっかりと説明している。 | 不明点はこちらからお聞きしましたが、きっちり解答して頂いている 方針をその都度、示して頂いている | これからも引き続き継続したい |
| | 3 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施 | 保護者に子どものいざという時の対処や、災害時の対応時などを確認をとるようにしている。 | ペアトレを実施してほしい。 | 利用者さんの特性を踏まえて、保護者がどのように対応したら良いかを事業所も同じ目線で考察できるようにする。 |
| | 4 | 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底 | 日々の連絡帳を通じて、子どもの様子を文面で連絡のやりとりを行っている。また必要に応じて、電話連絡も行っている。 | 初めてのことが苦手や状況の変化に対応するために、前もって出来ることに関しては、お聞きして実行できている | これからも引き続き継続したい |
| | 5 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施 | 事業所での子どもの様子をお伝えして、子どもの対応と一緒に考える体制をとっている。また必要ならば関係機関の紹介や助言を行っている。 | 専門的な助言があるとありがたい | 事業所内で抱え込むのではなく、必要ならば外部機関との連携を深めたい |
| | 6 | 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援 | 現在のところ、父母の会や保護者会はまだ開催していない。 | 保護者同士の関わりがあるか知らない | これまで保護者の会等なかったが、これからはクリスマス会などの行事を通じて参加していただくようにする |
| | 7 | 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応 | 苦情などに対し、指導員から様子を聞き、管理者などが責任を持って保護者の対応をしている。必要ならば、書面で再発防止策をお伝えしている。 | まだよく分からない | 現段階では苦情があれば、責任者を通じて問題解決を図っている。これからは指導員全体に情報を広げていきたい。 |
| | 8 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 | 文章の工夫を行い、必要な支援を行っている。特に大切な情報などは、赤いペンで記すなど、配慮している。 | 気になることがあった後は、お互いに利用日の前に連絡するなどしてきっちり意見や方向性の話ができていると思う | 文章の工夫に加えて、必要ならば視覚支援も取り入れて、実践したい |
| | 9 | 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信 | ホームページ等を通じて、活動内容などを伝えるようにしている。 | 概要や予定は知らないです。 | 当法人のホームページを通じて、事業所の活動内容を報告して、情報発信に努めたい |
| | 10 | 個人情報の取扱いに対する十分な対応 | どこの機関までよくて、ホームページ上ならどうであるかなど、詳細まで聞いている。 | おそらく… | 当法人の規約にも個人情報の取り扱いに関する規約があるが、事業所内に於いても特に配慮して扱うようにする |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|---------|--|--|----------------------|---|
| 非常時等の対応 | 1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底 | 避難場所の確認をするためにも、地域のイベントに参加して、避難の方法を考察している。また感染症対策は、アルコール消毒や漂白剤など、その時に応じて用いているようにしている。 | 最初に概略をお聞きした程度 | 最初に説明するだけでなく、定期的に避難訓練を行っている様子をホームページなどで開示する。また感染症対策についてもマニュアルを徹底する。 |
| | 2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施 | 避難場所の周知・確認。避難場所までの送迎は車で避難などするように、訓練している。 | 職員の方だけでも、確認していて欲しいです | 全職員が徹底して避難経路や場所などを更に把握する。また利用者さんと一緒に避難訓練も定期的実施している様子を伝える必要がある。 |
| | 3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応 | 今年度、虐待防止の研修を行った。また防犯カメラ・ドライブレコーダーを設置している。 | | 引き続き研修を重ねて、虐待等がないように徹底していく |
| | 4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載 | 現在のところ、身体拘束するまでの支援は行っていない。今後もしあり得るならば、保護者の承諾書の基、拘束する場面が見られた場合は、保護者に連絡する。 | | 前述の通り、身体拘束するまでの支援は行っていないが、今後あり得る場面に遭遇した時は、保護者に連絡してから行動する |
| | 5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応 | おやつ等ではアレルギー物質がある食材は提供しない。また他の子どもの食器と違うものを用いて、視覚的にも分かるようにしている。 | | これからも食器を変えるなど、視覚でも分かるように取り組む。また医師の指示書に従うように全職員で情報共有する。 |
| | 6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底 | 事例が起こればヒヤリハットを作成。そして、職員全体に行き渡るようにする。さらに職員同士で声掛けしあい、情報の共有を図っている。 | | ヒヤリハットが起これないように更に日々、全職員が徹底して声掛けして防止するように努める |